

# 自宅周辺の変化

林田 明

桜は終わって（今年も異常気象の日があったが）薫風かおる よい時候がやってきた。

ヨタヨタと散歩がてら外出すると 気分は はれるが 周辺を取り巻く環境の変化に 改めて気がつく。

私は 昭和37年（1962）頃から 転勤の期間は別にして 今の所（阪急茨木市駅から1km程）に住んでおり 駅と反対側方向は 少しの農家と田畑だった。その後は 次々と宅地化が進み 周囲は一変していったが 最近の変化には それほど気にしていなかった。

今は 自宅付近から 最寄駅まで自動車道は整備され その周辺にはコンビニが増え（小売店舗は減っており） なぜか 歯科医院は増えている。

車道は 主に 主婦らの軽自動車が増え 交通渋滞には うんざりする。車道をさけ住宅地内の道を とおると 歩く人は少ないのに 抜け道として利用する自動車と自転車の増加で 歩くのに気を使う。

また かつて各家屋の屋根上に よく見られた 太陽熱温水器のパネルは 殆ど見かけなくなり 庭は車庫として利用され 緑も少なくなっている。道路沿いの電柱には 電線ケーブルが はりかさなり 町の様子が 以前とはまた かなり変化している。

少し 外を出歩くだけで 住宅環境の変化していくのを 実感する。

都市周辺への人口集中は 宅地開発と生活利便性の向上によって 私もその恩恵を受けてきたが 家から 少し出歩く範囲でも 今度は交通渋滞 環境変化などの問題が生じているのがわかる。

これまでも 大気汚染の No2 So2 Co2 排出抑制が 叫ばれてきたが 時間がたつにつれ これらの問題を避けるかのように 今度はまた マスコミなどで 物価上昇 経済拡大 世界情勢の不安定などで 人々の関心を集め 不満と不安をあおっている。

利便性を追求することで 周辺で生じている状況などをみて 残されていく問題へ どう対応していくのかなあ と思う。